



▼土のう袋に土を詰める甲佐町建設業協会のメンバーら



山形会長は作業を終えて「毎年のように豪雨災害が起こる中、少しでも地域の安心につながればという思いで土のう作りに取り組みました」と汗を拭きました。

た土のうは、大井手川や湯田川、馬門川、内田川といった内水氾濫が想定される地点を中心に設置。いざという時に活用されます。

大雨対策で社会貢献を

甲佐町建設業協会が土のう作製ボランティア

5月25日（火）下横田の町備蓄倉庫前で、甲佐町建設業協会（山形学会長）が土のう作りを行いました。

町内の建設業者で構成される同協会が、社会貢献活動の一環として実施。これまでカーブミラーの清掃や町道の補修などのボランティア活動に取り組んでおり、今回は梅雨や台風などの大雨による内水氾濫に備えて、各建設業者から参加した32人が土のう2300個を作製しました。

参加者は、町が準備した土のう袋に手際よく土砂を詰め、1日にわたり活動に従事。出来上がった土のうは、大井手川や湯田川、馬門川、内田川といった内水氾濫が想定される地点を中心に設置。いざという時に活用されます。

アユ釣り愛好家集まる

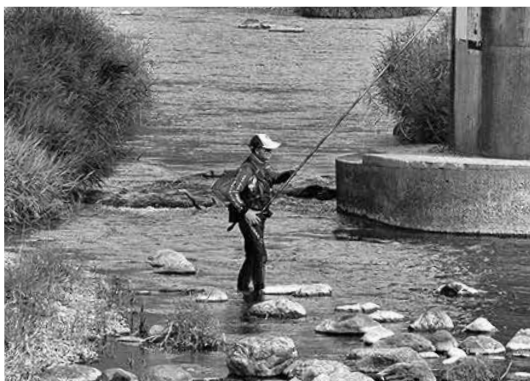
6月1日アユ釣り解禁日

6月1日（火）緑川を含む県内河川でアユ釣りが解禁となりました。

例年、町内外から釣り人や愛好家などが集まる中甲橋グリーンパーク付近では、雨の影響で川が濁り、釣り人の姿はまばら。

毎年解禁日にアユ釣りに出かけるという愛好家は、「まだ水量が多く、釣果は期待できないので、天候が回復して濁りが落ち着けば挑戦したい」と話しました。

甲佐の夏の風物詩である緑川のアユ釣りの風景は、秋ごろまで楽しめます。



▲中甲橋のたもとでアユ釣りを楽しむ釣り人



▲育て育てたジャガイモを収穫する子どもたち

地域社会で育てる子どもたち

令和3年度乙女小「まつやま塾」開講

5月28日（金）乙女高齢者福祉センターで、令和3年度まつやま塾が開講しました。

同塾は放課後に地域住民の参加協力を得て地域社会で子どもたちを育てることを目的に、町教育委員会が平成20年から主催。主に毎週水・金曜日に同小学校を中心に年間40回程度、活動を行います。

6月9日（水）は同塾が管理する畑でジャガイモの収穫に挑戦。子どもたちは、指導を受けながら丁寧に掘り出しました。

森田星愛さん（乙女小3年・津志田区）は「おっきなジャガイモをみんなで収穫できて楽しかったです」と話しました。

初夏を感じる宮内の風物詩

坂本梅林梅ちぎり

5月23日（日）上揚の坂本梅林で、梅ちぎりが行われました。

宮内地区の伝統を継承するためNPO法人「自然楽舎みやうち」（境国嗣代表）が例年、宮内梅まつりとして実施する梅ちぎり体験会は、新型コロナウイルスの影響で規模を縮小。昨年同様、関係者ら約10人で実施しました。

参加者は、手作業でひとつずつ丁寧に収穫した約200キロの梅を選別し袋詰め。毎年参加する後藤恵美子さん（上揚区）は「梅酒にして暑い夏に楽しみたい」と話しました。



▲収穫した青梅を選別して袋詰める参加者の皆さん



▲シート張り工法を実践する水防団員ら

堤防決壊を食い止める

令和3年度緑川水防演習

6月20日（日）消防団員で構成される甲佐町水防団が中甲橋グリーンパークに出動し、緑川水防演習を実施しました。同演習は、緑川流域の6市町などが参加する緑川水防演習協議会（藤木正幸会長）が主催。洪水などの非常時に際して迅速に対処できるように参加団体が連携・協力して実施しています。町水防団（井藤朋紀団長）の18人が、堤防への水の浸透を防ぐ「シート張り工法」を実施しました。新型コロナウイルス対策のため、昨年は実施を見合わせ、今年は参加自治体ごとに行う演習を動画撮影・編集する方法で行われました。

サングスター先生ありがとう！

A L T（外国語指導助手）退任式



▲A L Tとして子どもたちの英語教育に貢献したプレストンさん（中央）とエリンさん（右）に感謝状を手渡す蔵田教育長

6月3日（木）教育長室で、A L T（外国語指導助手）として町内小・中学校の英語教育を夫婦で支援してきたプレストン・サングスターさんとエリン・サングスターさんの退任式が行われ、蔵田勇治教育長から感謝状が手渡されました。

アメリカのテネシー州出身の2人は、平成28年8月に本町のA L Tに就任。プレストンさんは中学校で、エリンさんは小学校でそれぞれ英語教育を支援してきました。また、本町に来て始めた空手や社会人を対象とした英会話教室を通して、日本の生活や文化を体験。

子どもたちとかくれんぼなどの日本の遊びを楽しんだり、給食と一緒に食べながらアメリカや日本の話をしたりするなど、本町での約5年間を楽しく過ごされました。

各小・中学校でお別れのあいさつを済ませたプレストンさんは、「甲佐の皆さんは私にたくさんのことを教えてくれました。この多くの思い出を持って、私はアメリカに帰ります。この5年間は決して忘れません」と笑顔で話されました。